特集

農業に使える スマホアプリ

総務省の「令和２年 情報通信白書」によると、スマートフォン（スマホ）の世帯保有率は 2010 年に 9.7%だったものが、最新の 2019 年には 83.4%まで上昇している。一方、パソコンは同じ期間に 83.4%から 69.1%へと減少した。固定電話や FAX も同様の傾向だ。タブレット型端末が 3、40%台で停滞しているところを見ると、通信はスマホ１台で完結とする人がとくに若い世代になればなるほど大勢を占めていくことが推測される。仕事となればパソコンや固定電話も使うに決まっているだろうという考え方自体がもはや危険かもしれない。それほどスマホが日常に浸透している。そのスマホの利便性を高めているのがアプリだ。今回は農業との関連からこのスマホアプリに迫ってみたい。

読者アンケートに見るスマホアプリ周辺事情

本誌読者を中心に3／24～3／31にインターネットによるアンケート調査を実施した。それをもとにまずは周辺事情から捉えていく。

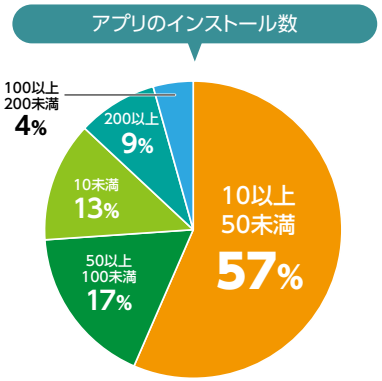
全員がスマホを所有

導入部で触れたとおり、スマホの普及率は目覚ましいものがある。回答者は社会人であり、別段、驚くことはないが、ガラパゴス携帯電話（ガラケー）（も所有しているかもしれないが）の所有者が一人もいないことはやはり驚きといえるか。



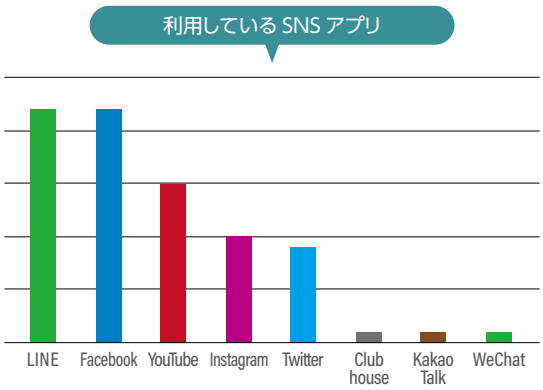
アプリのインストール数は10～50が最多

前項でスマホの所有率が100％だったことを受け、アプリのインストール数を聞いてみた。仕事に関係するものは一部かもしれないことはあらかじめ断っておく。6割弱が10以上50未満と答え、17％で50以上100未満が続いた。その次が10未満の一方、200以上という人も9％いた。



目的に応じて使い分けるSNS

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）とは、インターネット上で交流する共同的な会員制サービスのことを指す。メッセージ型や交流型、動画型、写真型といったものがある。1位は同数でLINE（ライン、メッセージ型）とFacebook（フェイスブック、交流型）だった。以下、YouTube（ユーチューブ、動画型）、Instagram（インスタグラム、写真型）、Twitter（ツイッター、交流型）と続き、Clubhouse（クラブハウス、音声型）やKakao Talk（カカオトーク、交流型）、WeChat（ウィーチャット、交流型）と答える人もいた。これらの使い分けについて得られた意見を列挙する。



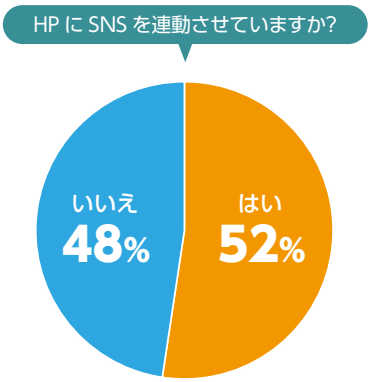
- FacebookとTwitterは情報発信、YouTubeは情報収集。
- LINEは連絡手段、Facebookは情報発信とお客さんとの情報交換。
- LINEは主に個人間のコミュニケーション、Facebookは情報収集・共有。
- LINEは個人的なやりとりのほか、機械屋とのやりとり。FacebookとYouTubeは仕事の情報収集。TwitterとInstagramは情報収集。
- 大まかにいえば、直売・収穫体験のPRはInstagram、技術情報収集はFacebookとYouTube、農業界隈のトレンドはTwitterという感じ。
- LINEは、従業員と作業中の状況確認や作業方法の確認に活用しており、写真や動画を交えて連絡しやすいので重宝している。投稿者の顔が見えやすく、距離が近い気がするのはFacebook。気軽にフォローでき、広く浅く交流できるのはInstagram。
- Facebookは実名で友人限定（設定）なので安心。Twitterはその逆だったため、不特定多数の

相手に疲れた。放牧という誤解されやすい農法を採用しており、情報の拡散よりは知的深化を促したいと考えて主に広報活動に利用している。

- LINEは仕事で、プライベートはInstagram、Facebook、YouTube。
- LINEとWeChatは発信するが、それ以外のFacebook、Twitter、Instagram、YouTubeは見るだけ。

HPとSNSとの連携は半々

ホームページにSNSのロゴなどを挿入して両者を連携させれば、自社サイトの情報が不特定多数に拡散され、会社の認知度の向上につながるメリットがある。最近では企業が各種の公式SNSを運営するのも標準化されてきた。それを問うた設問だが、はいといいえが半々と、業界的に手段を生かし切れていない現実が浮き彫りとなった。



お勧めのアプリ

農業（仕事）でよく利用しているアプリを最大三つ挙げてもらったものを本人のレポート付きで紹介する。

ビジネス・仕事の効率化

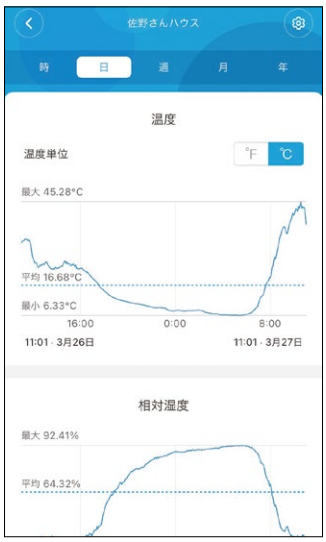
Govee Home

提供元：Govee

概　要:ユーザー所有のスマートデバイス（注:スマートフォンのような通信機能や簡易なコンピュータを内蔵し、ソフトウェアによる高度な情報処理機能を利用できる電子機器）の管理を支援する。デバイスの状態をリアルタイムで確認できたりする。

【ユーザー評】設定温度を超えるとアプリからアラートが出るので、離れた場所にあるハウスの開け忘れや閉め忘れが防げる。使用感はとても良く、カメラによる監視、自動かん水、ハウスの自動開閉などいろいろ展開予定。

坂野克也・名古屋みなと農園（愛知県）



KSAS

提供元：㈱クボタ

概　要：農作業日誌の作成から機械通信まで農業経営を見える化。

【ユーザー評】作付計画、作業実績などを日々入力している。

※画面のスクリーンショットはユーザーと関係ありません。



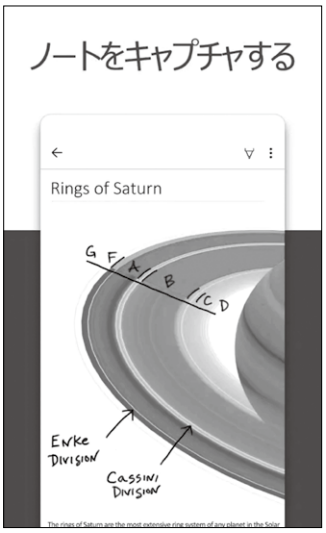
Microsoft OneNote

提供元：Microsoft Corporation

概　要：入力や手書き、描画、Webのコンテンツで一時的に考えたことを書き留められる。柔軟性の高い画面を使用し、コンテンツを必要な場所に配置する。手書きのメモやページをスキャンして直接取り込み、検索できるようにすることも可能。

【ユーザー評】作物の生育を写真付きで記録している。

※画面のスクリーンショットはユーザーと関係ありません。



farm note

提供元：farmnote

概　要：普段使っているメモ帳をスマートフォンに置き換えるだけ。繁殖・疾病の情報をタッチ操作で簡単に登録。乳牛・肉牛を同時に管理。

【ユーザー評】チェック牛のリストアップなど利用価値があるアプリだと感心している。

※画面のスクリーンショットはユーザーと関係ありません。

上野裕･農事組合法人新利根協同農学塾農場（茨城県）



freee

提供元：freee k.k.

概　要：難しい会計の知識がなくても、確定申告書の作成や法人の経理が可能。

【ユーザー評】経理（経費、売上管理）に利用。現金で何か買った場合はレシートをその場で撮影して入力、クレジットカードの場合は締めの段階で入力する。「AirREGI」（POSレジアプリ）など他社のアプリとAPI連携（アプリケーション間の連携）が充実している。操作性はとても良いが、品目別の販売管理といった細かな管理ができなかったり、月末まとめて請求での書式が当社で求めるフォーマットにできなかったり、一部ほかのアプリ（Microsoft Excel、Misocaなど）を併用する必要がある。

坂野克也・名古屋みなと農園（愛知県）





My Measures

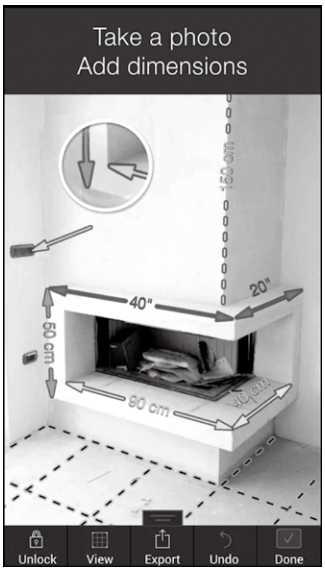
提供元：The App Studio

概　要：寸法を示すのに紙に対象物の絵を描くのは面倒臭いもの。それを相手に示すのであれば伝わるよう気をつけないといけないが、伝わらないケースも多い。このアプリでは､簡単に対象物の写真を撮り、寸法を足すだけ。矢印や角度、説明文を加えてわかりやすくできる。

【ユーザー評】寸法などメモするのに便利。

※画面のスクリーンショットはユーザーと関係ありません。

髙橋史夫（山形県）





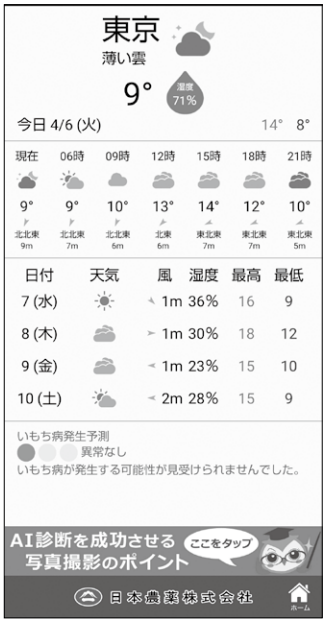
レイミーの AI病害虫雑草診断

提供元：日本農薬㈱

概　要：農作物に被害を及ぼす病害虫や雑草をAIが診断し、防除に有効な薬剤情報を提供する防除支援ツール。対象作物は4月6日現在、キャベツ、水稲、ねぎ、はくさい、ブロッコリー、レタス。

【ユーザー評】――

※画面のスクリーンショットはユーザーと関係ありません。





事業者向け通販【モノタロウ】

提供元：MonotaRO Co.,Ltd.

概　要：事業者向け通販「モノタロウ」で販売されている商品を「キーワード」や「バーコード」で簡単検索が可能で、ちょっとした空き時間に商品を探して後でゆっくりと買い物できる。

【ユーザー評】――

※画面のスクリーンショットはユーザーと関係ありません。



NO IMAGE

（名刺管理アプリ）

提供元：不明

概　要：不明

【ユーザー評】名刺や履歴が見られる。

天気

ウェザーニュース

提供元：Weathernews Inc.

概　要：情報量業界№１の総合天気アプリ。毎日の天気予報から雨量レーダー、地震情報や台風の進路まで、基本的に無料で見られる。

【ユーザー評】農作業シーズン中は毎日、特に播種や収穫時期は１日に何度も見る。当たるかどうかは別にして一番見やすく、情報が整理されている。他の「Yahoo! 天気」や「tenki.jp」も合わせ、総合的に自分なりに予想している。



Yahoo!天気

提供元：Yahoo Japan Corp.

概　要：市区町村ごとの最大 17 日先までの天気予報や時間ごとの詳細な天気予報、今現在の気温・湿度・気圧などがわかる。

【ユーザー評】就寝前、起床時、雨雲接近時のアラートなどの際に毎日見ている。風が強い地域なので、農薬散布作業時など風速の時間別予報が非常に助かる。また、確度は下がるが、17 日先までの予報が出るのも便利。

坂野克也・名古屋みなと農園（愛知県）



Windy

提供元：Windyty SE

概　要：気象レーダー、衛星、風、波、ハリケーン予報。広告がない。

【ユーザー評】台風や強風が予測される低気圧などが近づいているとき、未来の予報も含め風量・風向・風速が色と、白い矢印の方向と長さで示される。感覚的、視覚的に捉えやすく、荒天時の行動予定を立てるために利用。台風等が近づいてくるときは数日前から随時見る。地図を自由に拡大、縮小できるので、把握したい範囲を自由にスワイプして見られる。なお、予測がどれだけ正しいのかはわからないので、気象庁と米軍の台風進路予測なども併用している。

※パソコンで見た強風時の画面。

小島一之（青森県）



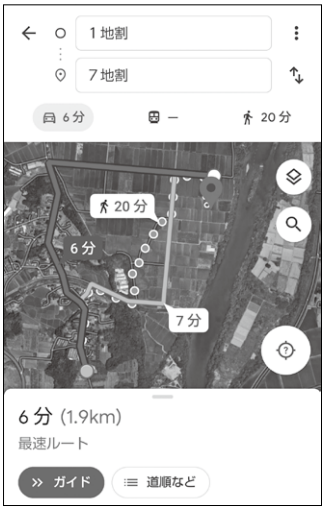
地図＆ナビ

Googleマップ

提供元：AppStar Studios

概　要：GPS、地図、音声ナビゲーション＆道順アプリを使用して運転ルートを探す。

【ユーザー評】従業員へ作業地点までの道順を示すときに使う。LINE と併用もする。



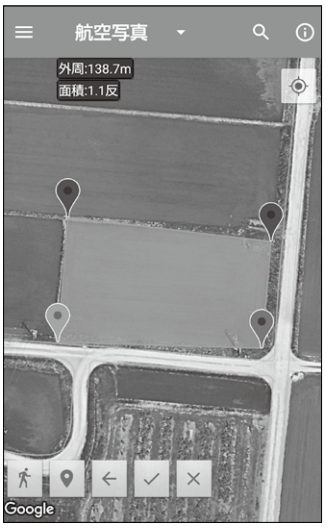


GPSで面積

提供元：㈱寺田製作所

概　要:GPS で現在地を取得し、囲まれた面積を計算。また、GPS だけではなく、地図からの面積や距離も計算できる。

【ユーザー評】おおよその面積計算がすぐでき、操作が簡単で使い勝手が良い。LINE と併用もする。



ライフスタイル



Amazon Alexa

提供元：Amazon Mobile LLC

概　要:「アレクサ」と話しかけるだけで、買い物リストを作成したり、音楽を再生したり、最新のニュースを入手したりできる。使えば使うほどユーザーの話し方や語彙、好みを学習する。

【ユーザー評】何かと便利。

※画面のスクリーンショットはユーザーと関係ありません。





COLUMN

スマホ後発組ながらアプリの利用を仕事にも急拡大中

今回、アンケートに協力していただいた方々はスマホ歴が長い人たちだろう。Facebookの利用者がほぼ100%だったことからそう推測した。

かくいう筆者は後発組だ。ガラケーの所有は早く、以来20年弱のときを機種変更を繰り返しながら使い続けてきた。そして、スマホの世帯保有率が8割前後に達したころによ うやくスマホを手にした。それから2年半ほどの月日が経つ。率直にもっと早く切り替えておけばよかったと強く思う。

16ページの背景は筆者のスマホの画面になる。私物ながら仕事と共用している。ここに表示されていないアプリを含めると全部で122あった。すべてを頻繁に利用しているわけではないが、無駄なものは基本的にアンインストールして整理するようにしている。仕事にも関係するものでは次のアプリをインストールしていた。

LINE／Twitter／Instagram／Facebook／Messenger／Google カレンダー／Gmail／Yahoo!天気／Yahoo!乗換案内／Google マップ／カメラ／Scene／InShot／電卓／楽天でんわ／ゆうパックスマホ割／Google ドライブ／昔の航空写真地図／レイミーのAI病害虫雑草診断／WhatsApp／Windy

筆者は、編集者としての顔と、数畝のレベルだが家庭菜園愛好者としてのそれがある。後者も仕事の一環で行なっている。

スマホの習熟に際して手始めにLINEから入るとともに、普段から現金の使用を避け、クレジットカードのほか、LINE PayやPayPayといった決済アプリや銀行アプリ、さらには家計簿アプリのマネーフォワードMEとの連携など、プライベートでまめに活用することでなんとか遅れを取り戻してスマホを使いこなせるようになった。

パソコンでできるアプリもあれば、できないものもある。もちろん、スマホでできない（非効率な）こともある。しかし、スマホがないことでの弊害は仕事柄かもしれないが、とても大きいと感じる。

たとえば、外勤中に連絡があったとき、Googleカレンダーや Gmailのアプリを使えば即座に対応できる。会社に戻らなければ確認できないとか、返信できないということはない。原稿確認にしても、ファイルのパソコンメールへの添付やファクスでの送信ではなく、SNSアプリへの添付が珍しくなくなった。もちろん、情報収集の手段としての効果は非常に高い。

こうして筆者はスマホが手放せないツールになった。

アンケートの自由回答欄でこんなことを述べている人がいた。

「主体は次世代に譲るとして、我々も積極的に触れておくことが必要と感じている」

スマホはあくまでツールに過ぎない。それでも、使われるのではなく、使えるようになれば、これからの新たなアプリの登場や改良が、電話やメールといった旧来の枠にとどまらない、未知の世界へと我々を誘ってくれるに違いない。



家庭菜園では馬鈴薯の単作に取り組み、販売も手がけている。今年は350kg前後の収穫を見込む。その模様はTwitterで随時発信しており、アプリのカメラで撮影しては撮りためた画像をSceneから選んで掲載している。